

香川大学における教職大学院の拡充に関するアンケートのお願い（学部3年生対象）

香川大学大学院教育学研究科
高度教職実践専攻

香川大学では2016年4月に教職大学院（高度教職実践専攻）を開設しました。平成32年度からは、これまでの学校教育専攻（特別支援教育分野を含む）や教科教育専攻も教職大学院に統合される予定です。

そこで、2020年3月に卒業見込みの皆さんの意見等を聴取したいので、以下のアンケートにご協力をお願い申し上げます。

教職大学院では、学部段階での資質・能力と教員免許状を有した者の中から、より実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成を行います。今までの大学院と大きく異なり、修士論文がなく、より確かな授業力や学級経営力を身に付けることをめざしています。研究者教員に加え、実務経験の豊富な実務家教員が教育指導に当たります。大学院レベルの高度の専門性教育と、児童生徒に関する喫緊の教育課題や指導法の改善等の学校教育に関わる実践的教育を展開しています。また、課題を解決するために大学教員と教育のフィールドに入り、協働的に取り組む実習（実践研究）等もあります。

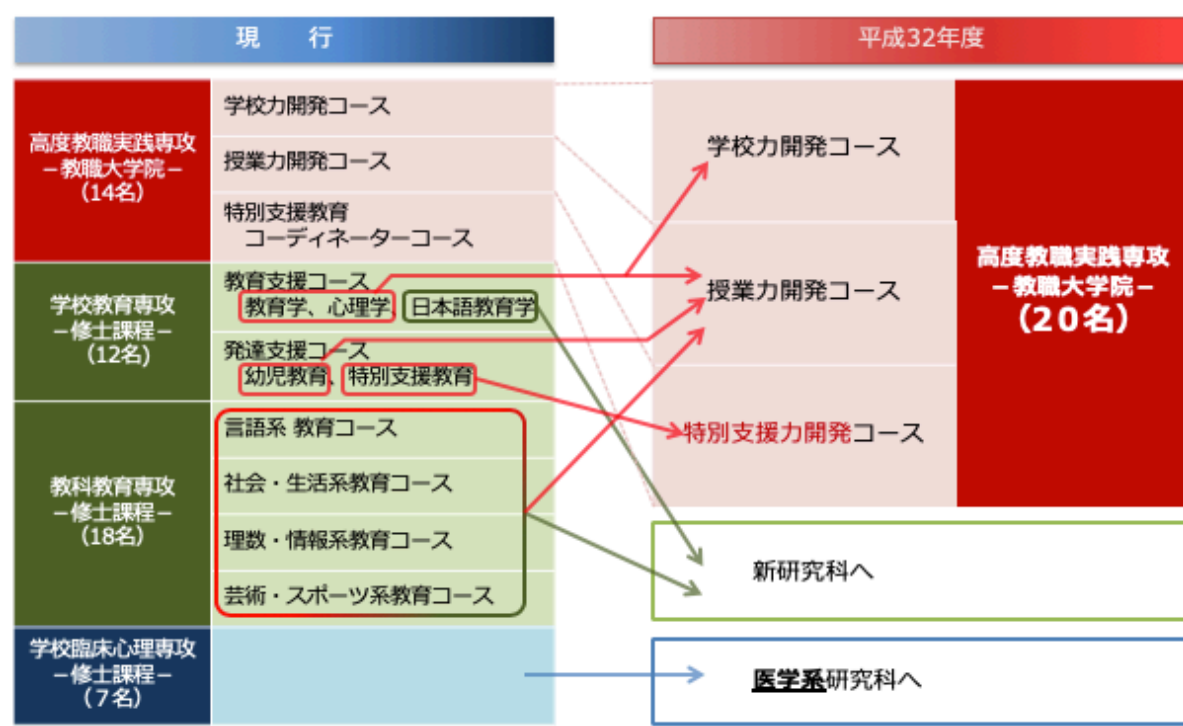
なお、香川県や岡山県などでは、学部卒業時に教員採用試験に合格した方の採用を、教職大学院を修了するまでの2年間延伸してもらえらる制度があります。

各コースの特色は以下の通りです。

学校力開発コース：（ストレートマスターは修学できません）学校力とは、確かな授業力を基盤として形成される力であり、自律的学校経営を支えるために求められる学級経営力や生徒指導力、学校経営力などから構成される総合力です。社会の変化や地域、保護者の要請に応え主体的に学校改善に取り組むなど、現代に求められる学校力開発の中核的役割を担う教員を養成します。

授業力開発コース：今の時代に求められる「授業」の姿を追究しながら、教科の本質を踏まえた授業開発、道徳教育や授業力向上等の学校課題解決に向け、教育実践を構想し開発するための展望と力量をもつ教員を養成します。

特別支援力開発コース：教育学研究科附属の特別支援教室「すばる」や附属特別支援学校における指導事例の検討や実習、発達障害に関わる医療・療育機関等における実習など、演習と実習に重点を置いたカリキュラムを構築し、通常の学級に在籍する発達障害等のある児童生徒、特別支援学級、特別支援学校に在籍する児童生徒への支援を行い、特別支援教育に関わる校内体制を確立する要となる教員を養成します。



香川大学における教職大学院の拡充に関するアンケート（学部3年生対象）

香川大学大学院教育学研究科
高度教職実践専攻

取得予定免許（幼・小・中・高・特支）〔 〕年（男・女） 教職志望（有・無）

以下の質問についてあてはまる（ ）の中に○を付してください。

1 大学院での学びに関心がありますか。

①（ ）ある ②（ ）少しある ③（ ）あまりない ④（ ）全くない

2 教職大学院での学びについてお聞きします。

(1) 香川大学の教職大学院で学んでみたいと思いますか。

①（ ）学部卒業後により実践力を付けたいので、教職大学院での学びも考えてみたい。

②（ ）教員として就職した後に、機会があれば、教職大学院で学んでみたい。

③（ ）教職大学院ではなく、他大学等の学問中心の大学院で学んでみたい。

④（ ）教職大学院には全く興味がない。

(2) 上記①、②に○をつけた方にお聞きします。もし教職大学院で学ぶとすれば、どの分野で学びたいですか。複数選択可。

①（ ）授業力開発コース

②（ ）特別支援力開発コース

③（ ）どの分野でもよい

ご協力ありがとうございました。

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について（速報）

義務教育課

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象（全数調査）

- ① 小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 ② 中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数・数学はそれぞれ、「主として知識に関する問題」※¹と「主として活用に関する問題」※²を出題。 ・理科については、「主として知識に関する問題」と「主として活用に関する問題」を一体的に出題。
<p>※1 主として知識に関する問題（A問題） 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</p> <p>※2 主として活用に関する問題（B問題） 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容など</p>

② 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査実施日 平成30年4月17日（火）

(5) 調査を実施した本県の学校・児童生徒数

【小学校調査】

	学校数	児童数
公立小学校	157校	8,141人

【中学校調査】

	学校数	生徒数
公立中学校	70校	7,949人

(6) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

「全国的な学力調査の今後の改善方策について」（平成 29 年 3 月 29 日）では、「平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を提供することとする。」とされており、平成 29 年度から都道府県別の平均正答率については、国から整数値で提供されることとなっている。

なお、平成 28 年度には、熊本県並びに宮崎県及び大分県の一部の小・中学校の調査結果の数値は含まれない。

2 今後の予定

○ 調査結果の分析

本年度の調査結果について、主に次のような分析を実施し、各学校や市町（学校組合）教育委員会において、それぞれの教育及び教育施策の改善に資することができるよう、調査結果を分析し、報告書に取りまとめ送付する。

- ・ 教科に関する調査の設問ごとの分析
- ・ 学術的な知見を踏まえた学力調査及び質問紙調査結果の分析 等

○ 分析結果の活用

調査結果の分析に基づき、児童生徒の学力向上に向けた授業改善等の取組を推進する。

- ・ 授業改善のためのリーフレットの作成・周知
- ・ 学力向上モデル校事業等を通して、学習習慣の確立を図る指導や学力の定着のための取組を推進
- ・ 「香川の教育づくり発表会」等の研修会を通じたモデル校の実践等の普及
- ・ 各種研修会等において分析結果に基づく授業改善を促進
- ・ 「平成 30 年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた協議会」において、小・中学校の理科の授業改善への支援

○ 「活用ツール」の配布

報告書に掲載した内容の設問や質問について、自校のデータを表やグラフに表示するツールを作成し、県教育委員会で分析した報告書の内容と学校データとを比較できるようにすることで、県内の小・中学校が共通して分析を行えるよう支援する。

○ 各学校等における分析等への支援

調査結果を各学校の実態に応じて分析したり、授業改善の手立てを検討したりするために、各学校等の要請に応じて指導主事を派遣する。

3 教科に関する調査の結果概況

(1) 全体的な状況について

【小学校調査】

小学校では、国語B、算数Bで全国平均を上回り、算数A、理科で同等であり、国語Aで下回った。

調査区分	国語A					国語B				
	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26
県(公立) 平均正答率(%)	69	75	75.0	72.3	75.5	58	59	59.5	69.5	58.8
全国(公立) 平均正答率(%)	71 (70.7)	75 (74.8)	72.9	70.0	72.9	55 (54.7)	58 (57.5)	57.8	65.4	55.5
県と全国との差(pt)	-2	0	+2.1	+2.3	+2.6	+3	+1	+1.7	+4.1	+3.3

調査区分	算数A					算数B				
	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26
県(公立) 平均正答率(%)	64	79	78.2	74.3	78.5	53	48	46.7	47.0	59.5
全国(公立) 平均正答率(%)	64 (63.5)	79 (78.6)	77.6	75.2	78.1	52 (51.5)	46 (45.9)	47.2	45.0	58.2
県と全国との差(pt)	0	0	+0.6	-0.9	+0.4	+1	+2	-0.5	+2.0	+1.3

調査区分	理科		
	H30	(参考) H27	(参考) H24
県(公立) 平均正答率(%)	60	62.3	64.3
全国(公立) 平均正答率(%)	60 (60.3)	60.8	60.9
県と全国との差(pt)	0	+1.5	+3.4

【中学校調査】

中学校では、数学Aで全国平均を上回り、国語A、理科で同等であり、国語B、数学Bで下回った。

調査区分	国語A					国語B				
	調査年度	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27
県(公立) 平均正答率(%)	76	78	77.2	76.0	79.3	60	71	67.5	64.9	51.4
全国(公立) 平均正答率(%)	76 (76.1)	77 (77.4)	75.6	75.8	79.4	61 (61.2)	72 (72.2)	66.5	65.8	51.0
県と全国との差(pt)	0	+1	+1.6	+0.2	-0.1	-1	-1	+1.0	-0.9	+0.4

調査区分	数学A					数学B				
	調査年度	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27
県(公立) 平均正答率(%)	67	66	63.8	64.4	67.8	46	49	44.6	41.3	60.0
全国(公立) 平均正答率(%)	66 (66.1)	65 (64.6)	62.2	64.4	67.4	47 (46.9)	48 (48.1)	44.1	41.6	59.8
県と全国との差(pt)	+1	+1	+1.6	±0.0	+0.4	-1	+1	+0.5	-0.3	+0.2

調査区分	理科		
	調査年度	H30	(参考) H27
県(公立) 平均正答率(%)	66	53.2	51.5
全国(公立) 平均正答率(%)	66 (66.1)	53.0	51.0
県と全国との差(pt)	0	+0.2	+0.5

(2) 学習指導要領の領域ごとの状況について（全国（公立）との比較）

① 小学校

【国語A】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で上回り、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で下回った。

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、具体的には、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題などで下回った。（問題5）
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、具体的には、相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題などで下回った。（問題7）

【国語B】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、すべての領域で上回った。

- ・「書くこと」において、具体的には、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えを書く問題などで上回った。（問題1三）
- ・「読むこと」において、具体的には、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む問題などで上回った。（問題3二）

【算数A】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、「量と測定」「図形」で上回り、「数と計算」「数量関係」で下回った。

- ・「図形」において、具体的には、円周率の意味について理解しているかを問う問題などで上回った。（問題7（1））
- ・「図形」及び「数量関係」において、具体的には、円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを、直径の長ささと円周の長さの関係に基づいて理解しているかを問う問題などで下回った。（問題7（2））

【算数B】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、すべての領域で上回った。

- ・「量と測定」及び「図形」において、具体的には、一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に記述する問題などで上回った。（問題1（2））
- ・「数と計算」において、具体的には、九九の表の2の段の横に並んでいる七つの数について、示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する問題などで上回った。（問題4（2））

【理科】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、「エネルギー」で上回り、「物質」「生命」「地球」で下回った。

- ・「エネルギー」において、具体的には、乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適応できるかを問う問題などで上回った。（問題3（1））
- ・「物質」において、具体的には、ろ過の適切な操作方法を身に付けているかを問う問題で下回った。（問題4（1））

学習指導要領の領域等	国語A				国語B			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
県（公立） 平均正答率（%）	91.8	75.7	74.3	64.5	69.4	49.8	56.0	
全国（公立） 平均正答率（%）	90.8	73.8	74.0	67.0	64.6	45.6	50.8	
県と全国との差（pt）	+1.0	+1.9	+0.3	-2.5	+4.8	+4.2	+5.2	

学習指導要領の領域	算数A				算数B			
	数と計算	量と測定	図形	数量関係	数と計算	量と測定	図形	数量関係
県（公立） 平均正答率（%）	62.0	74.3	57.2	58.4	60.8	54.7	60.3	45.8
全国（公立） 平均正答率（%）	62.3	72.7	56.9	60.1	58.4	52.4	59.9	45.1
県と全国との差（pt）	-0.3	+1.6	+0.3	-1.7	+2.4	+2.3	+0.4	+0.7

学習指導要領の領域	理科			
	物質	エネルギー	生命	地球
県（公立） 平均正答率（%）	58.5	53.9	71.6	49.4
全国（公立） 平均正答率（%）	59.8	53.1	73.6	49.5
県と全国との差（pt）	-1.3	+0.8	-2.0	-0.1

② 中学校

【国語A】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で上回り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で下回った。

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、具体的には、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題などで上回った。（問題8六2）
- ・「書くこと」において、具体的には、書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する問題などで下回った。（問題4一）

【国語B】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で上回り、「話すこと・聞くこと」「読むこと」で下回った。

- ・「話すこと・聞くこと」において、具体的には、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す問題などで下回った。（問題2三）
- ・「読むこと」において、具体的には、文章の構成や展開について自分の考えをもつ問題などで下回った。（問題1二）

【数学A】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、「数と式」「関数」で上回り、「図形」「資料の活用」で下回った。

- ・「数と式」において、具体的には、絶対値の意味を理解しているかを問う問題などで上回った。（問題1（2））
- ・「関数」において、具体的には、一次関数の意味を理解しているかを問う問題などで上回った。（問題1（2））

【数学B】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、すべての領域で下回った。

- ・「資料の活用」において、具体的には、与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができるかを問う問題などで下回った。（問題1（2））
- ・「図形」において、具体的には、証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができるかを問う問題で下回った。（問題4（1））

【理科】

○全国（公立）の平均正答率と比較すると、「化学的領域」「生物的領域」で上回り、「物理的領域」「地学的領域」で下回った。

- ・「生物的領域」において、具体的には、神経系の働きについての知識を身に付けているかを問う問題などで上回った。（問題5（1））
- ・「物理的領域」において、具体的には、オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができるかを問う問題などで下回った。（問題6（2））

学習指導要領の領域等	国語A				国語B			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
県（公立） 平均正答率(%)	74.4	72.7	76.3	76.8	74.6	31.5	52.1	49.6
全国(公立) 平均正答率(%)	75.2	73.9	76.7	76.5	76.6	31.3	53.5	49.2
県と全国との差(pt)	-0.8	-1.2	-0.4	+0.3	-2.0	+0.2	-1.4	+0.4

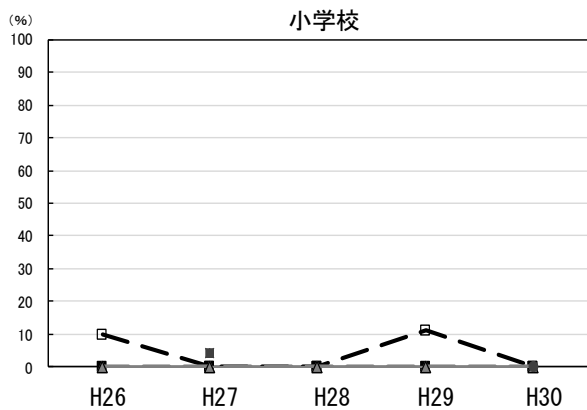
学習指導要領の領域	数学A				数学B			
	数と式	図形	関数	資料の活用	数と式	図形	関数	資料の活用
県（公立） 平均正答率(%)	73.5	68.6	56.5	63.3	51.0	45.8	50.9	36.1
全国(公立) 平均正答率(%)	71.1	69.1	55.5	63.5	51.4	46.7	52.8	38.0
県と全国との差(pt)	+2.4	-0.5	+1.0	-0.2	-0.4	-0.9	-1.9	-1.9

学習指導要領の領域	理科			
	物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域
県（公立） 平均正答率(%)	72.1	65.6	73.5	56.5
全国(公立) 平均正答率(%)	74.4	65.0	72.5	57.8
県と全国との差(pt)	-2.3	+0.6	+1.0	-1.3

(3) 無解答率について

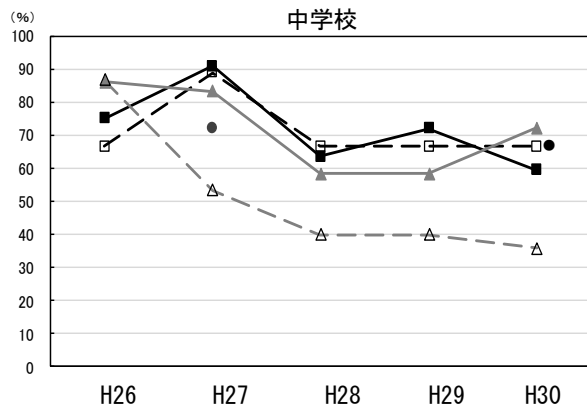
小学校では、全国平均を上回る問題はなかった。
 中学校では、全国平均を上回る問題が多く、昨年度と同程度である。

無解答率が全国平均を上回った問題の割合の推移



■国語A □国語B ▲算数A △算数B ●理科

	H26	H27	H28	H29	H30
国語A	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国語B	10.0	0.0	0.0	11.1	0.0
算数A	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
算数B	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
理科		4.2			0.0



■国語A □国語B ▲数学A △数学B ●理科

	H26	H27	H28	H29	H30
国語A	75.0	90.9	63.6	71.9	59.4
国語B	66.7	88.9	66.7	66.7	66.7
数学A	86.1	83.3	58.3	58.3	72.2
数学B	86.7	53.3	40.0	40.0	35.7
理科		72.0			66.7

- ・ 小学校では、無解答率が全国平均を上回る問題数は、全 60 問中、 0 問 (0.0%)
- ・ 中学校では、無解答率が全国平均を上回る問題数は、全 118 問中、 74 問 (62.7%)

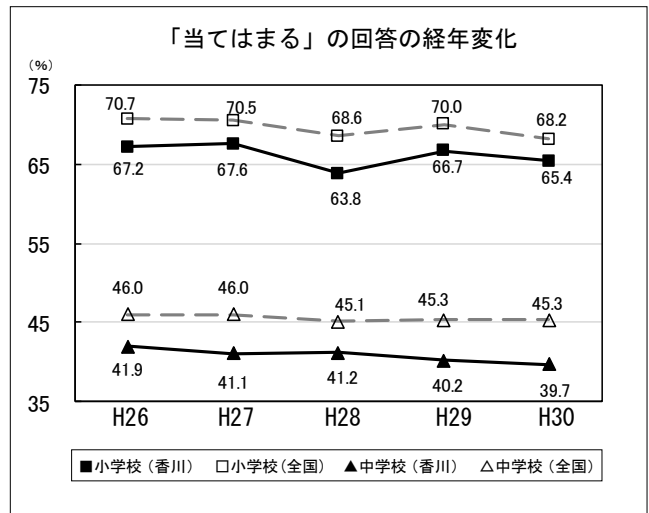
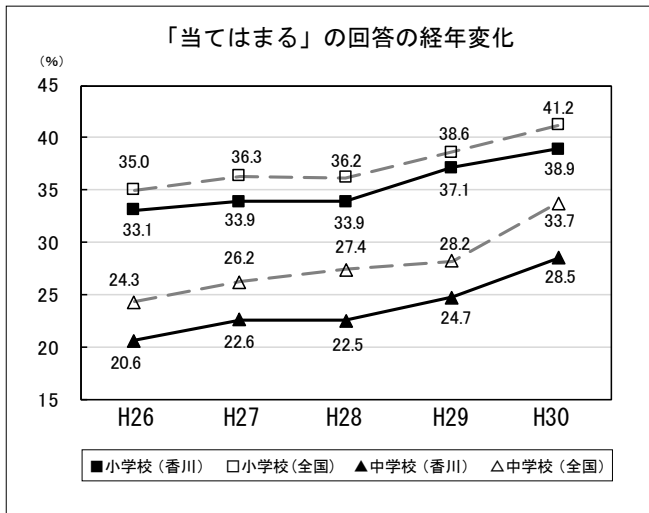
4 児童生徒質問紙調査の結果概況

(1) 自尊意識等について

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国平均を下回っているが、年々増加している。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と経年変化が似ているが、全国平均を下回っている。

□1 自分には、よいところがあると思いますか

□3 将来の夢や目標を持っていますか

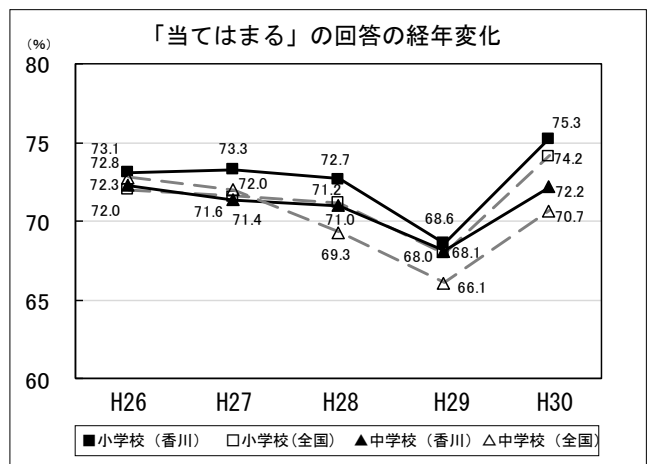
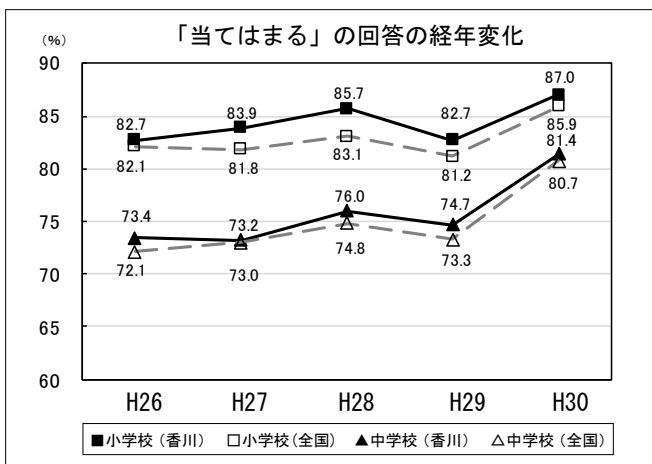


(2) 規範意識について

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。「人の役に立つ人間になりたいと思えますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国平均を上回っている。

□5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

□6 人の役に立つ人間になりたいと思えますか



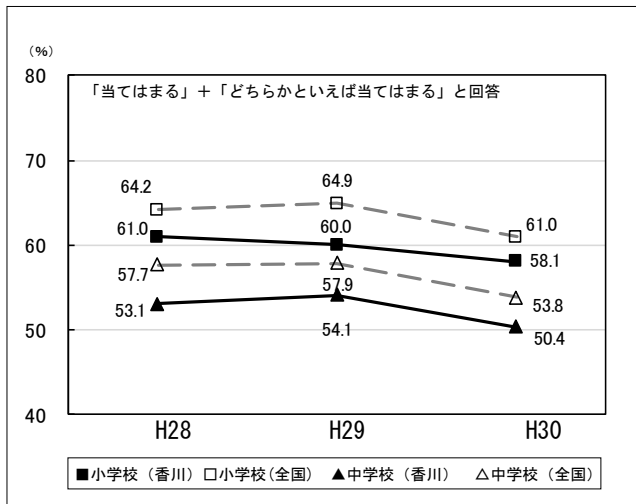
※ □番号は、児童生徒質問紙調査番号を示す

(3) 言語活動について

「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒は、全国平均を下回ったが、「学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加しており、中学校では全国平均を上回った。

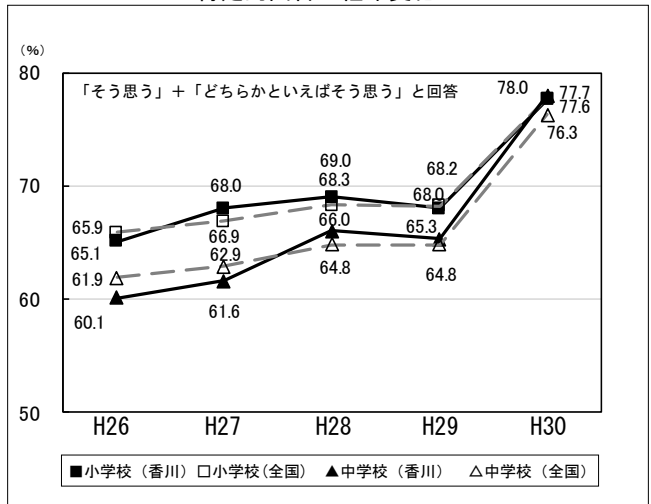
□56/53 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していただけますか

肯定的回答の経年変化



□57/54 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

肯定的回答の経年変化

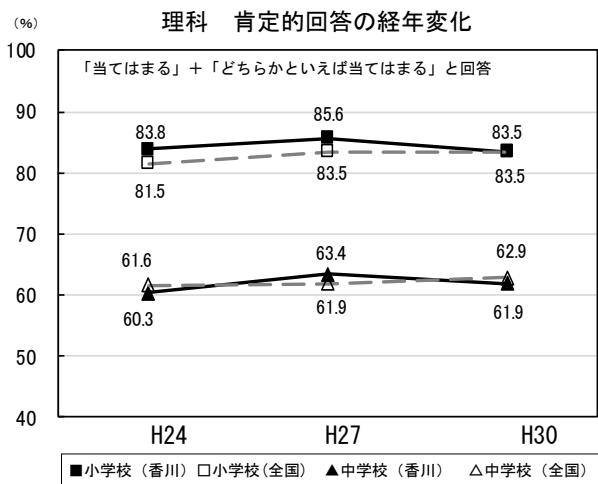
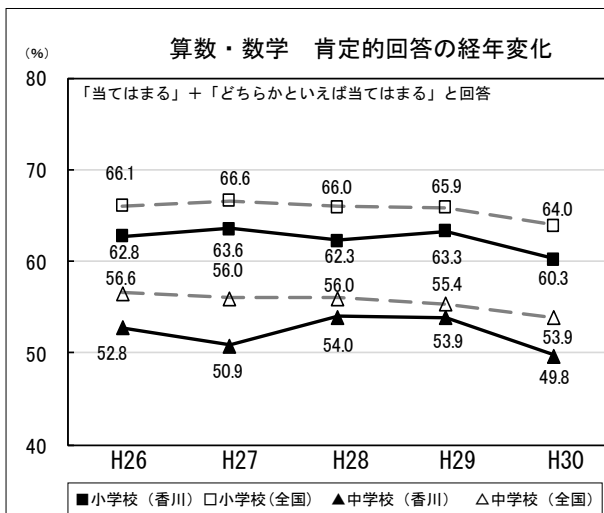


※H26、27は該当の質問無し

(4) 学習に対する関心・意欲について

「〇〇の勉強は好きですか」の質問に、肯定的に回答している児童生徒の割合は、算数・数学では小・中学校ともに全国平均を下回っているが、小学校の理科では全国平均と同等である。「〇〇の授業の内容はよくわかりますか」の質問に、肯定的に回答している児童生徒の割合は、小・中学校ともに少しずつ上昇しており、全国平均とほぼ同等である。

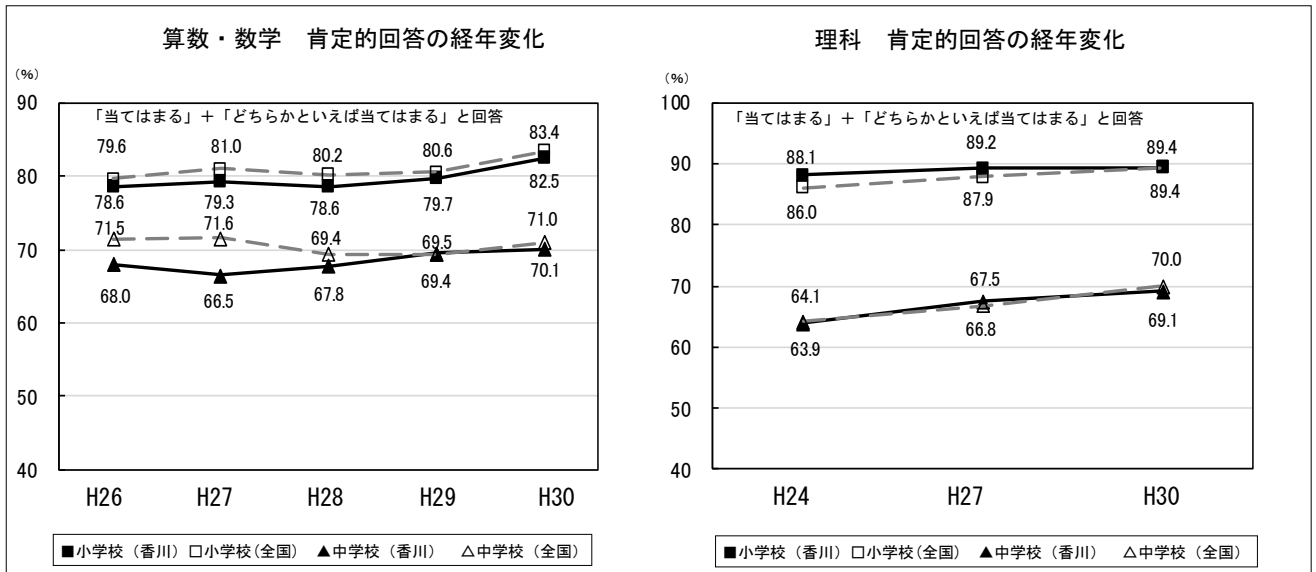
□27 38 〇〇の勉強は好きですか



※H30は国語に関する質問無し

※ □番号は、児童生徒質問紙調査番号を示す

□29 40 ○○の授業の内容はよく分かりますか

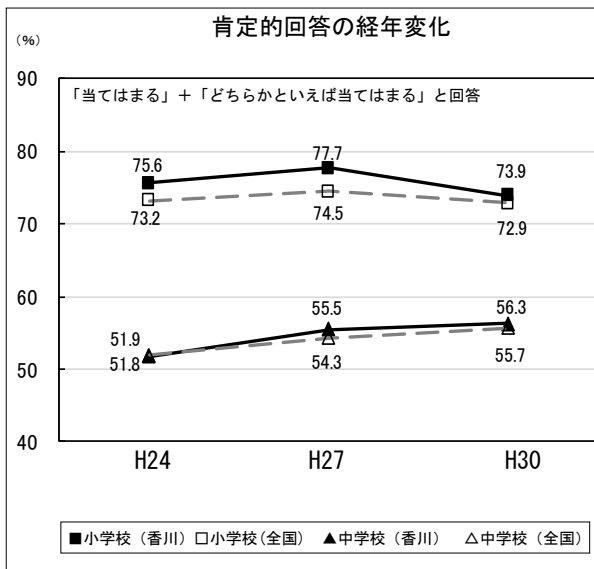


※H30は国語に関する質問無し

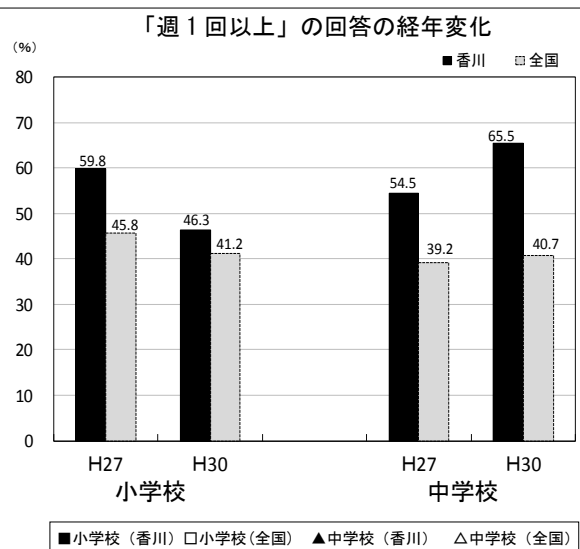
(5) 理科に対する意識について

「理科の授業で学習したことは、将来、役に立つと思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っている。「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」の質問に「週1回以上」と回答した児童生徒の割合は全国平均を上回っている。

□43 理科の授業で学習したことは、将来、役に立つと思いますか



□46 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか



※ □番号は、児童生徒質問紙調査番号を示す